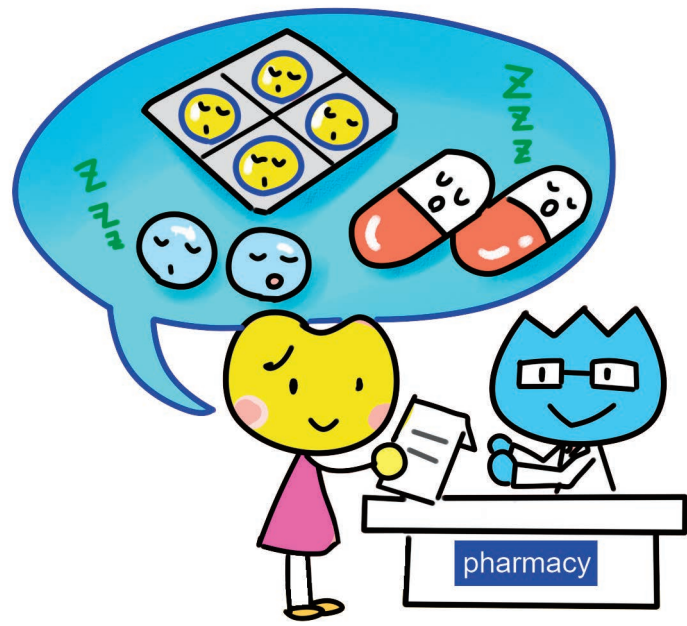


眠っているお薬ありませんか？ ～残薬にひびく～

残薬とは、飲み忘れや自己判断による調整などで使わずに残ってしまったお薬のことです。こうした「残薬」が原因で、日本では年間数百億円もの医療費が無駄になっていると言われていています。

今回は、残薬問題の現状やそのリスク、そして残薬を減らすための対策をご紹介します。



健康を脅かす「残薬」

残薬が増える要因で最も危険なのは、自己判断による服用です。

●「症状が治ったから」と服用を中断してしまう

血圧やコレステロール、糖尿病などの生活習慣病の薬は、症状がなくても服用を続けることで病気の進行を防いでいます。自己判断でやめてしまうと病気が悪化し、結果としてより高度な治療や入院が必要になるリスクが高まります。

●「また同じ症状が出たから」と古い薬を飲む

過去の残薬を服用すると、現在の体の状態や他の薬との飲み合わせが確認できません。薬によっては症状を悪化させたり、予期せぬ副作用が出たりする可能性があります。

●「また風邪をひいたときのために」と抗生物質を残しておく

抗生物質を自己判断で服用す

ると、病原菌が薬に対して耐性を持つてしまい、本当に必要になったときに効果が弱くなる恐れがあります。

薬は、医師が「今のあなたの状態」に合わせて処方したものです。自己判断で使用を中断したり再開したりすることは、かえって治療を妨げ、健康被害の原因にもなります。

また、「捨てるのはもったいない」と保管していても、薬は食品と同じように劣化します。湿気の多い場所（台所や洗面所など）、直射日光が当たる場所、高温になる場所（車内など）に置かれた薬は、成分が分解されたり品質が変化したりする可能性があります。

処方薬には個別の使用期限は書かれていませんが、時間とともに確実に品質は落ちていきます。効き目が弱まった薬を飲んでも十分な治療効果は得られず、病気が長引くことにつながります。

医療費を圧迫する「残薬」

病院で処方される薬の費用は、自己負担だけでなく、健康保険や税金でも支えられています。残薬は、国民医療費の観点からも社会問題のひとつです。

薬局では薬剤師が積極的に残薬を確認し、医師に処方内容の調整を提案することで、年間数百億円もの薬剤費が削減できるという試算があります。削減された費用は、新しい治療薬の開発や介護など、ほかの医療・福祉分野に回すことも可能で、国民全体の利益に

「残薬」をなくすために

つながります。

●薬局に「残薬」を持っていく

飲み残しや使い残しの薬は、全て薬局に持参してください。薬剤師が残薬の状態を確認し、使えるものは継続利用し、使えないものは安全に廃棄します。また、なぜ残ったのか（飲み忘れ、副作用、自己中断など）を聞き取り、原因に応じた対策を提案します。

●「かかりつけ薬剤師」を持つ

複数の病院・薬局に分かれています。た薬の情報を一人の薬剤師がま

飲むタイミングの調整ができます。

「数が多くて飲めない」「錠剤が大きい」「回数が多い」などの困りごとでも、配合剤（1錠に複数成分が含まれる薬）や粉薬への変更、服用回数が少ない薬への変更で改善できる場合があります。

残薬を減らすことは、皆さんの健康を守るだけでなく、日本の財政・社会保障制度を維持することにもつながります。残薬でお困りの方は、次に薬局へ行く際、ぜひ残薬を持って、薬剤師に相談することから始めてみましょう。（湯沢ファミリー調剤薬局 入澤祐介）

薬剤師会からのお知らせ

秋田県薬剤師会では、薬剤師をより身近に感じていただき、皆さまの健康に役立てていただくことを目的に本誌「郷」のほか、ラジオを通じて情報を発信しております。

健康情報だけでなく、いろいろな薬剤師の仕事も発信しております。ぜひ、お聴きいただけましたら幸いです。

ABSラジオで放送中!

みんなの健康

【毎週火曜】AM 11:35～11:45

(再放送/PM 6:10～6:20)

周波数 (kHz) ●秋田936 ●浅舞1485 ●大館1557 ●鹿角801

エフエム秋田で放送中!

隣の薬剤師さん

【毎週火曜】お昼 12:55から

周波数 82.8MHz

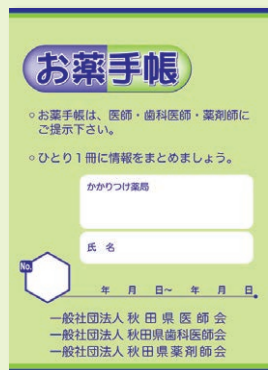
ラジコ(radiko)

でも聴取できます!



スマホの方は
コチラから

くすりの「安全な服用」
まずは、お薬手帳の
提示から!



処方せんの有効期限は
処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会

秋田市千秋久保田町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail info@akiyaku.or.jp http://www.akiyaku.or.jp